

群馬県 川場村議会

(事績 1) 政策づくりと監視機能を十分発揮している議会

(1) 議員の資質向上に向けた取組

川場村議会では、議員のありかた、資質向上を図るため、群馬県町村議会議長会主催の各種研修等に積極的に参加している。

(2) 議員同士の自由な討議

川場村議会では常に活発な議論が展開されており、世代の垣根を取り払った自由な討議が実施出来るよう努めるとともに、執行部に対する監視体制の強化に努めている。令和 6 年 6 月定例会では、活発な討議の結果、提出された専決処分の承認 2 件を不承認としている。

(3) 専門分野に関する視察研修の実施

2 つの常任委員会において、コロナ禍により数年休止していた視察研修を令和 4 年度より再開した。令和 5 年度においては総務文教常任委員会が川場村でも課題となっている人口減少問題における移住定住対策について、長野県小川村、群馬県上野村を訪問し、視察研修を実施した。産業振興常任委員会においては、農業を基幹産業とする川場村において、担い手不足を補う次世代農業としてスマート農業について、茨城県夢ある農業総合研究所を訪問、川場村の農業部門において後継者も多い酪農関係について栃木県畜産酪農研究センターを訪問し視察研修を実施した。今後も川場村の課題解決に向け、参考となる機関への視察研修を実施していく予定である。

(事績 2) 住民に開かれた議会

(1) こども議会の実施

議会の仕組みや運営方法を実際に体験し、理解してもらうとともに、中学生ならではの発想による川場村の村づくりのための要望や意見を聞き、今後の村政運営に役立てるため平成 28 年より「こども議会」を開催している。中学 3 年生数名による一般質問形式での質問を作成するに当たり、川場村の現状把握・課題・対策などグループ討議を重ねることにより、川場村への理解と愛情を深めるとても良い機会となっている。過去のこども議会で提案のあった幾つかの事業も実際に村の政策に取り入れられ、実行されている。行政と中学生の貴重な意見交換の場であるため、今後とも実施していきたい。

（２）議会日程の周知及び広報誌の作成について

川場村のホームページにおいて、議会の日程、一般質問の項目、本会議の議事録、議会広報誌を掲載し、議会活動の周知を図っている。議会広報では令和５年より新たな組織編成となり、「皆に手に取って読んでもらえる広報誌でなければ意味がない」を共通認識とし、誌面改革に取り組んでいる。群馬県榛東村、埼玉県寄居町に伺い視察研修を実施し、スキルアップを図り、議員自ら取材に赴き、村民や関係者の写真やコメントを載せるよう努力している。最近では村民からの評判も良く更なる向上を目指す。

（実績３）議員のなり手不足に真摯に向き合いその対策を講じている議会

（１）議会のデジタル化、議場のバリアフリー化

令和５年１１月、役場新庁舎開庁に伴い議場も新設された。旧議場ではマイク３本と音響設備も乏しく公開できる状況ではなかったが、新議場では最新設備を導入し、ライブ配信を役場庁舎内において実施している。今後はインターネットを活用した配信を検討したい。ペーパーレス、タブレット化についても現在検討を進めている。また、旧議場では机が全て固定式で、ひな壇形式であったが、新議場では多目的会場、バリアフリーを考慮し可動収納型、オールフラットな構造としている。

（２）議員の定数及び報酬の検討

全国的に問題となっている議員のなり手不足について、川場村においても例外ではなく将来にわたる重要な課題であるにとらえ議論を重ねた。令和４年３月に全議員で構成する特別委員会を設置し、（株）地方議会総合研究所の廣瀬和彦氏をお迎えし勉強会を開催、先進地研修など１２回に及ぶ委員会を開催し議論を行った。結果、議員定数においては議会の果たす役割は極めて重要であり、監視機能の充実や議論の活発化を図る上でも現状維持すべきであると判断したが、議員報酬においては、議員活動のさらなる活発化、議員の士気や経済基盤を向上させるため、報酬の増額が必要であると判断し、村当局へ報酬増額の要望書を提出した。その結果令和５年４月から一律、月額３万円の増額となり、群馬県内最低の報酬から脱却を果たした。今後もこの問題は継続して議論すべきと思われる。